

事業区分 青少年教育に関するモデル的事業 実践研究事業

## 事業名 ASO一周100kmチャレンジキャンプ

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家  
[後援] 熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会 南小国町教育委員会 南阿蘇村教育委員会  
[期日] 令和6年8月18日(日)～24日(土) 【6泊7日】  
事前説明会 令和6年8月4日(日)  
[活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家及び阿蘇各地  
[参加者] 20名(小学生12名、中学生8名)  
[担当職員] 阿蘇青少年交流の家7名  
[関係団体] 南阿蘇ファームキャンプ アイデアITカレッジ阿蘇  
[ボランティア] 法人ボランティア9名

### 1 趣旨

自然環境に恵まれた「阿蘇」の大地をフィールドとして、100kmの長距離ハイキングやキャンプ活動等を通して、同じ目的をもった仲間とともに困難に挑戦し、最後までやり遂げる力を育むとともに他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣を身に付ける。

### 2 目標

- (1) 参加者8割が、最後までやり遂げる力が身についたと答えることができる。
- (2) 参加者8割が、友達と仲良くなり、思いやりをもった行動ができたと答えることができる。

### 3 事業展開

(1) 研修プログラム

期日	行程	宿泊場所	距離(km)
1日目	8/18 出発 →阿蘇神社→国造神社→一の宮温泉館	内牧小	13.3
2日目	8/19 内牧小→大観峰→小嵐山公園	市原小	18
3日目	8/20 市原小→旧宮原線→木塊館→下城の滝	市原小	15
4日目	8/21 市原小→千光寺→中原小→押戸石	白水小	13.4
5日目	8/22 米塚→草千里周回→杵島岳周回→中岳火口→砂千里→火口駐車場	アイデアITカレッジ阿蘇	12.6
6日目	8/23 アイデアITカレッジ阿蘇→新阿蘇大橋→白川水源	白水小	21
7日目	8/24 鍋の平キャンプ場→交流の家(ゴール)		15

(2) 活動の様子



【事前説明会】



【1日目 阿蘇神社にて】



【2日目 旧国鉄宮原線】



【5日目 砂千里にて】



【6日目 水源にて】



【7日目 ゴール風景】

## 4 評価、成果と課題

### (1) 評価

#### ① 参加者の満足度

設 問	項目	◎	○	△	×
周りの友達から支えられていると感じることができたか。	回答数 (人)	17	3	0	0
	割合 (%)	85	15	0	0
お互いに励まし合って活動に取り組むことができたか。	回答数 (人)	18	2	0	0
	割合 (%)	90	10	0	0
つらい時に、力を振り絞って頑張ることができたか。	回答数 (人)	19	1	0	0
	割合 (%)	95	5	0	0

#### ② 参加者の声

- ・ 楽しくて、一週間があつという間に過ぎていきました。もっと長い時間みんなとA S O 1 0 0したかったです。
- ・ 自分がかかれていた時「荷物を持ってあげようか」と聞かれ、周りの友達から支えられていると感じた。
- ・ 班の友達と助け合うことができた。助け合いはすごくいいことだから、日常生活でも頑張りたい。
- ・ 1番でのゴールを狙っていたけれど、最後はそんなの関係なく、他の班とも楽しくゴールできた。

### (2) 成果

- スタート時に子供たちとルール「安全、一生懸命、公平、楽しく」を確認したことで、子供たちも意識することができ、ボランティアもルールをよりどころとしてサポートすることができた。
- 法人ボランティア9名に参加してもらい、活動中は各班に2名配置し、安全指導を徹底することができた。また、子供たちの関係性の細かい変化も気付くことができた。
- 宿泊地を次の日のスタート場所にすることにより、朝早くから出発することができ、涼しい時間帯に活動することができた。
- 阿蘇医療センターと連携し、専門的なアドバイスを得ることができ、熱中症や感染症対策について、事前説明会や職員・ボランティア研修会に生かすことで、全員無事にゴールできた。

### (3) 課題

- 新しいルートを取り入れ、ルート自体はいいものであったが、職員も少し迷ってしまうところがあったので、下見で分かりにくいところの確認などを実施しておくべきであった。
- ボランティアとの振り返りの時間やボランティア同士での相談の時間が長くかかってしまう日があり、体調面を考えると改善していく必要がある。